みんなの広場

▲お正月といえば初もうで。新年にあたって、「良い年となるように」と大勢の人が参拝に訪れました。
1月1日㈭／所沢神明社

▲お茶の香りも産地を当てる重要なポイントです。品質鑑定技術の向上を目指した「闘茶会」。
1月14日㈫／晨麓苑

▲災害に強い街をつくるため、有毒ガス漏えいを想定した特殊な活動訓練等も実施した「消防出初式」。
1月7日㈫／所沢航空記念公園

▲優勝はだれの手に！真剣な表情で大会に臨み、郷土愛も深めた「さいたま郷土かるた所沢大会」。
1月18日㈯／市民武道館

街かどズームイン Zoom in

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「魚」▶南の海の魚は色とりどりの天然色でとてもきれい▶魚つりが三度の食事より大好きな太公望と呼ばれる人もいます▶何よりもこの寒い時期、旬の魚の鍋ものなんてこたえられません▶皆さんの魚に関するお話をお待ちしています▶締め切りは2月13日㈭必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

太陽電池

和ヶ原・山ノ井　義治

父は、明治生まれで質実剛健をモットーとしていた。身の回りの品もぜいたくを嫌い、質素なものを買い求めた。

父の七回忌が過ぎたとき、実家の後片づけをすることになり、家族で遺品を整理した。生前の父のものが出てきて、懐かしさと追慕の念にかられた。

父の書斎の出窓の片隅に、うっすらとほこりをかぶった銀色の腕時計が置かれていた。

それは、驚いたことに秒針がまだ正確に時を刻んでいた。父に再会した様な気がした。

よく調べてみると太陽電池を動力とする型であった。

交換時の電池代を節約したのであろうか。父の合理的な倹約精神がしのばれて思わず苦笑いしたものだった。

太陽は避けるもの

東狭山ヶ丘・加藤　富美子

植物を育てていると、本当に太陽は大切な存在だと思います。

夏に育てた大きなひまわりの花は首を大きく曲げて、太陽に向かっていました。

私は、今年の夏、久々に背中の皮がボロボロむけるくらいに日に焼けました。

冬になり、夏に日に当たったから風邪を引かないことを期待していた私は、今まで経験したこともない、なんと3か月間の長い風邪をひいてしまいました。

しかも、夏の日焼け後はシミにまでなってしまいました。

植物でない、おばさんの私には太陽は当たるものではなく、避けるものと実感しました。

親孝行

久米・岩崎　君江

今日もいい天気だ。お天道様の光は、田んぼいっぱいに降り注いでいる。

やがてその光は、背中を焼き、田んぼの水を温め、稲の葉もあぜ道の可れんな花も草もチリチリとよいれていく。

麦わら帽子にほおかむり。なのに玉の汗がボタリボタリと落ちてくる。我慢して我慢して親孝行したものだ。

腰をかがめると稲の葉が目をつつき、裸足の作業のためヒルにも食われた。

「暑ければ暑いほど良い米ができる」。今は亡き父親の言葉を思い出している私です。

太陽のお化粧

東狭山ヶ丘・伊藤　平八

今年の正月、山形から娘の家族が尋ねてきたときのことである。3日の日は雪空でさんざんであったが、4日の日は雲ひとつない晴天になった。

所沢の山紫水明の景色を見せてやろうと、狭山湖に出かけた。

堤防の欄干から湖面を越え、向かいの山を越えてそびえ立つ富士山が太陽に照らされて、神々しく輝いて見えた。

水面にかすかに写る逆さ富士を水鳥が波紋で散らす景色も面白く、湖面から立ち上がる朝もやが、一層その場を幻想的な空間にしてくれていた。

今日の太陽は東北から来た珍客に、狭山湖の最高に化粧した姿を見せてくれた。

甥たち家族は、所沢の良い思いでを持って帰ってくれたことであろう。

入り日

本郷・北原　郁子

何年前になるか定かではない。夫と顔振峠を歩いていたときに見た日の入り。

雲取山への陵線にある天目山のとがった山頂からいく筋もの長い長い金色の光が私たちに向かって延びている。今でも2度と見ることのできないチャンスだったと思っている。

絵のような金色の光の流れ。どのくらい時間が経ったのか、静かに、そしてストンと日が沈み、光がスーッと消えていくまでを夢をみているように眺めていた夫も今は他界した。

そのときの情景と夫の死が重なって脳裏に焼き付いている。

ホットした瞬間

和ヶ原・田中　隆清

4年前、娘の発案で中国地方に2泊3日の観光旅行にでかけたときのことです。

妻と娘と私は、秋の好天に恵まれ、最終の宮島参拝となり、楽しく観光パンフレットを見ながら、松林を歩いていたとき、私の顔に鈍い音がして、松の小枝が目に深く刺さりました。

驚きのあまり目が開けられず、ハンカチで目を押さえながら、痛む目をかばい、帰路につきました。

所沢に戻り、娘の導きで防衛医大の急患となり、結果は四針の傷でしたが、ひどい化膿もなく、通院で治療しました。

10日ほど眼帯をかけ、恐る恐る取り外したとき、正常に日の光が見えた瞬間、ホットしました。

眼球に傷がなく、ばい菌も入らなかったことが、不幸中の幸いで、忘れることのできない思い出の旅行となりました。

今でも裕ちゃんが大好き！

松郷・石原　晃子

太陽と言えば、裕次郎さんですよ。「すれちがったとき、石けんの香りのするような女性が好き」と聞き、香水もオーデコロンも化粧もあまりしなくなった。

化けることより自分自身を磨くことなのでしょうか。

慎太郎さんの「弟」、奥様の追悼本…彼に関する本をたくさん読みました。

どこにいても、どのような状態のときでも太陽のようなものの気がします。

彼を取り巻く人たちは、明るさや暖かさ、思いやる心、慈しむ心、笑顔等をたくさんもらったのだと思いました。

私も彼のように周りを明るく照らし、暖かな陽を投げかけられるようになりたいと思うのですが、この歳になっても人間が未熟で…。

「貴方といると暖かい」、「貴方を思うと明るくなる」と言われてみたいですね。

さあ、今年は燃える太陽のようになれるかな。

いつつ山太陽を

若狭・田原　敬三

『唇に歌を持て、心に太陽を持て』と少年のころに教わって以来、どんな辛いことがあっても、大抵、この言葉を想起して陽気に好きな歌をワンさみながらうっぷんを晴らし、切り抜けてきました。

人間の心の働きには陰気と陽気の二つの面があり、陰気になると、とかく他人に対して冷淡となり、人を苦しめることはあっても助ける気は起こらなくなります。

近ごろ、世の中は暗いことが多く、今でも地球のどこかで武力衝突が起きています。文明の衝突等と言われるとー抹の不安を感じ、和の心（太陽の心）の欠如を憂います。

しかし、文明の対話、太陽の政策…等の動きには希望が持てます。『心に太陽を！』を合言葉として人類がみな一致して行動すれば、こんな物騒な世の中にはならないと思うのですが…。

次回のテーマは「魚」です

はつらつ！ところ野老っ子

関根　孝さん
（久米在住）

時代を超えてよみがえる古書画

表具師の仕事は、掛軸・屏風等の表装を業務とし、日本の文化とも大変縁の深いものです。今回は、この世界を極めた“現代の名工”関根さんを紹介します。

関根さんは、表具師として永年に渡る技術者としての実績が認められ、昨年11月に卓越した技能者の表彰（厚生労働大臣表彰）を受賞しました。この表彰は全国でさまざまな分野から150人の技術者が受賞し、表具師としては7人が受賞しました。

戦後まもなく、父親が勤務する沼津市の皇室御用邸に出入りをしていた表具師のもとで手伝いを始め、この世界に入りました。「当時は軽い気持ちで始めたことで、師弟関係等という堅苦しいものではなかったんです」と当時を振り返ります。

31歳で独立し、所沢で表具店を営んで33年になります。書道家や日本画家等からは絶大な信頼を受け、掛け軸の表装や古書等の修復にも高い評価があります。

関根さんの表装は昔から伝わる手作業による古典表装が主で、掛けたときにまっすぐにかかるように細部に渡り気が配られ、使用する裂地（作品の背景に使用するもの）とのコントラストは絶妙なものがあります。

作業は相当の集中力を必要とし、時間の経つのも忘れ、気がつくと夜中になってしまうこともあるそうです。

「お預かりした大切な書や日本画等の表装に自分でも納得がいき、お客様に喜んでいただいたときが一番です」とこの仕事の魅力を語ってくれました。

掛け軸の表装作業のようす

一方で、歳を重ねるごとに自分への評価も厳しくなり、これからは時間をかけても良いものを残したいと仕事に対する厳しい一面をのぞかせます。

最近では、いろいろな素材を使うことで時代のニーズにあった表装技術の開拓にも余念がありません。

書や絵画等の美術展に出向き、表装の技術に磨きをかけます。「この仕事は一生勉強です」とさりげなく話す関根さんですが、名工の技はこうした日々の努力があってこそ生み出されるものなのでしょう。

Tokorozawa ものしりウォーキング ㉞

三ヶ島1丁目・籔（えびら）の梅

三ヶ島1丁目には「籔の梅」で知られる古木があります。県道所沢青梅線を三ヶ島方面に向かい、狭山湖入口交差点を過ぎて左に折れると、川沿いに200メートルほど行った左手になります。かつては、川沿いに数十本残っていましたが、昭和40年代の道路拡張工事に伴って伐採されてしまいました。今では、1本だけが移植され、現在地に残っています。

籔の梅

籔は、矢を入れて背負う武具の一つです。

「籔の梅」は、正平7年（1352）群馬県で挙兵した新田義興らと足利尊氏らが小手指ヶ原で一戦を交えた際、足利方の饗庭命鶴丸を大将とする一隊がこの地の梅の枝を折り、鎧（よろい）や籔に差して戦ったとされる故事にちなむものです。

江戸時代には、幕府が編さんした『新編武蔵風土記稿』の三ヶ島村の項に「古戦場字下田というところに東西に流るる小流あり。（中略）かの流れにそいて数株の梅樹あり。これ太平記に載せたる花一挨の人びと、梅花の枝を折りて籔にさしたりとあるは、この梅林の枝を折りとりしなりという」と紹介されています。

昭和初期には東川沿いの300間（約545メートル）の間に30本の梅樹が点々とあったことがわかっています。ところで、この「籔の梅」からさほど遠くない県道所沢青梅線の北側の道端に、もう一つ籔の梅の伝説を伝える梅の木と記念碑が建っているのをご存じでしょうか。

個人の家の敷地にあるその碑は、大正9年に建てられ、碑面に「花一挨梅樹古跡」と刻まれています。碑は個人的に建てられたものですが、側に植えられた白梅の古木は、もとは東川沿いにあったもののようです。

「籔の梅」は、第二次世界大戦までは埼玉県の史跡名勝に指定されていました。戦後の指定文化財の見直しによって解除されましたが、江戸時代の文献に記録されているほど古くからある言い伝えなのです。

古木の梅花は3月上旬に満開となります。花見を兼ねて周辺を散策してみてはいかがでしょうか。

梅の木と記念碑

誰でもエッセイ

テーマ“太陽”

●**譲ります**　▽学習机▽レーザーディスク▽チャイルドカーシート（4か月～4歳用）▽女性用スキー板（165㎝）・靴（23・5㎝）▽工業用ミシン▽スタッドレスタイヤ（215／80R15）▽マウンテンバイク▽介護用ベッド▽賞状用額縁（大）▽絵画用木製パネル（B版全サイズ対応）▽ジャングルジム付き滑り台▽もちつき器

●**求めます**　▽掃除機▽自動伴奏機▽英会話教材セット（大人・子ども用）▽自転車（大人・婦人用）▽ピアノ▽ロックミシン（2本糸用）▽杵（きね）と臼（うす）

受付方法　電話による先着順で紹介します。ただし、利用者は所沢市民に限ります。

休館日　月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎944－0008）

ご覧ください

■テレビ埼玉
所沢リポート
2月28日㈮／①午後5時30分～40分②午後10時15分～25分放映

■シティケーブルネット
広報ところざわ テレビ情報館
2月20日㈭～／①午後1時55分～2時②午後9時55分～10時放映

広報テレビ番組

リサイクルふれあい館 不用品ガイド